

競技・審判上の注意

1. 本大会は、平成28年度公益財団法人日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程並びに同公認審判員規程により行います。
2. 試合開始の場内放送後、10分経過して当該選手がコートに入らない場合は棄権とみなします。その最終判断はレフェリーが行います。
3. 連続試合の場合は、原則として試合終了後15分の間隔を置き、次の試合を始めます。
4. シャトルは試打してありますので、選択は認めません。シャトルの交換については、主審の許可を得てください。
5. 試合中の水分補給については、必ず主審の許可を得てください。容器については蓋付きのものとし、床面にこぼさないように注意してください。飲料容器は、コート脇のカゴに入れるようにしてください。
6. コーチングシート（コーチ席）は、所定の位置に2席用意してあります。コーチ席での服装は公認審判員規程第5項（6）に規定されたものとします。
7. 試合時の服装で、色付き着衣を使用する場合は（公財）日本バドミントン協会の審査合格品とし、上衣の背面には都道府県名を明記してください。（ゼッケン可）
8. 試合中のケガや病気の場合は、主審の判断によってレフェリーを呼び、レフェリーが医療役員やその他の人をコートに呼ぶ必要があるかどうかの判断を下します。なお、試合中のケガや病気の応急処置は主催者側で行いますが、その後の処置については各自の責任で行ってください。
9. 携帯電話は、試合中電源をOFFにしてください。警告、フォルトの対象になります。また、モバイル機器（iPad等）を使用する試合中のアドバイス、コーチングは、禁止します。
10. 本大会の主審と一部線審は、東京都バドミントン協会が行いますが、敗者は次の試合の線審となります。試合終了後、敗者の方はそのコートで待機してください。なお、敗者線審を担当する際は（代理の方を含め）、体育館シューズ着用をお願いします。競技最終日（準決勝、決勝）の審判は、全て東京都バドミントン協会で行います。
11. 審判構成は、主審、線審2名で、サービスジャッジは原則として配置しません。